

令和4年度

香 芝 市 議 会  
行政視察研修報告書



高松市子ども未来館

香芝市庁舎等乳幼児等施設利用

環境調査特別委員会

## 1. 概要

### 香芝市議会 香芝市庁舎等乳幼児等施設利用環境調査特別委員会

#### 県外視察研修（令和4年度）

1. 日程 令和4年11月17日（木）～11月18日（金）

2. 出席者 （委員長）眞鍋 亜樹  
（委員）河杉 博之 中村 良路 芦高 清友  
（議長）川田 裕  
（理事者）福祉部長 平山 訓徳 教育部長 澤 和七  
（随行者）議会事務局長 奥田 恵士

以上 8名

3. 視察地

##### ◆香川県丸亀市

香川県丸亀市大手町2丁目4番11号

人口：108,541人（令和4年10月1日現在）

面積：111.83km<sup>2</sup>

##### ◆香川県高松市

香川県高松市松島町1丁目15-1

人口：422,727人（令和4年10月1日現在）

面積：375.41km<sup>2</sup>

4. 視察事項

（1）丸亀市・・・丸亀市市民交流活動センターマルタスについて

（2）高松市・・・高松市子ども未来館について

本委員会は、令和4年10月18日の香芝市庁舎等の視察後に、当該委員会において上記のとおり派遣を決定し視察研修を行った。

まず、11月17日の午後に丸亀市役所を訪れ、「丸亀市市民交流活動センターマルタスについて」の説明を受けた後、質疑等を行った。

翌11月18日には、高松市を訪れ、「高松市子ども未来館について」の説明を受けた後、質疑等を行った。

実施委員は、11月18日の夕刻に帰郷した。

## 2. 研修内容のまとめ

日 時：令和4年11月17日（木）

視 察 地：香川県丸亀市

研修内容：「丸亀市市民交流活動センターマルタスについて」

### 【丸亀市の概要】

丸亀市は、香川県の海岸線側ほぼ中央部に位置し、北は風光めいびな瀬戸内海国立公園、南は讃岐山脈に連なる山々、陸地部は讃岐平野の一部で、平坦な田園地帯が広がっています。そして、瀬戸内海には本島、広島、手島、小手島、牛島などの島々が点在しています。

広ぼうは、東西 24.16 キロメートル、南北 23.82 キロメートル。市の陸地部の中央に標高 422 メートルの飯野山がそびえ、中心には土器川が流れ、多数のため池が水辺空間を創出しています。

温暖少雨のいわゆる瀬戸内特有の気候となっています。気温は、年平均気温が約 16 度、冬季でもおおむね 5 度以上あり、温暖な気候に恵まれています。年間降水量は約 1,000mm ですが、渇水が懸念されることもあります。降水日数は、年平均約 100 日で、日照時間は全国平均よりも高い地域に分類されます。

早くから海上交通の要衝として、また、物資の集散地として発展し、特に金刀比羅宮（こんぴらさん）の参道口として大いににぎわいました。1602 年、生駒氏が亀山に築城し、丸亀城と名付けたのが「丸亀」という名の起こりといわれており、以後、城下町として栄えてきました。丸亀城は扇の勾配と呼ばれる美しい石垣が有名で、その石垣は高さ日本一を誇り、現在も市のシンボルとして多くの人たちに親しまれています。

丸亀市は平成の大合併により、平成 17 年 3 月 22 日に旧丸亀市、旧綾歌町、旧飯山町が合併し、新「丸亀市」として新たに発足しました。

旧丸亀市は明治 32 年 4 月、全国で 53 番目に市制が発足し、平成 11 年には市制施行 100 周年という節目の年を迎えました。

○市の花・木・鳥

花・・・さつき、木・・・やまもも

## ○丸亀市市民交流活動センターマルタスについて

### [目的]

市民一人ひとりの知恵と力が活かされる「市民力」と、地域の個性が活かされる「地域力」が結びつき、市民と行政・NPO等と一緒にまちづくりに汗を流す「市民協働」の舞台となり、そして、将来の丸亀市を担う「人づくり」の場とすることを目的とした。

### [経緯]

平成25年に市庁舎等耐震診断を実施し、市庁舎等の整備における基本方針、庁舎等整備基本構想及び市庁舎等複合施設整備基本計画が策定された。

将来的な人口減少で地域の担い手が減少しても、「まちに関わる人を増やし育てていく」ことを考え、多くの人が集う場を提供すること、住民にとって住みよいまちであり続けること、地域や市民活動への関心を促すこと、地域のために行動する人を育てることを目的に、市民や来館者が集まる空間を整備し交流するしかけを柔軟に展開しながら、まちの基礎となる人やアイデアを育むまちづくりの拠点施設として、複合施設市民交流活動センターを建設することとなった。

### [実績]

市民交流活動センターに備える機能として、市民活動を支援する機能、人や情報が交流する機能を備え、このふたつの要素でまちの未来を担う人づくりをおこない、多くの人が集う場を提供すること、住民にとって住みよいまちであり続けること、地域や市民活動への関心を促すこと、地域のために行動する人を育てることに取り組みを行ってきた。

市民交流活動センターの利用者数は、1日1,900人超の活発な利用状況である。



### [所感]

市民交流活動センターの利用者数は、1日1,900人超の利用状況であるとの報告及び現地視察でもわかったが、非常に多くの方が利用されていた。

目標である地域の個性が活かされる「地域力」が結びつき、市民と行政・NPO等と一緒にまちづくりに汗を流す「市民協働」による、未来を担う人づくり、多くの人が集う場の提供がきっちり実現されている現状について大いに参考になった。

### 3. 研修内容のまとめ

日 時：令和4年11月18日（金）

視 察 地：香川県高松市

研修内容：「高松市子ども未来館について」

#### 【高松市の概要】

高松市は、多島美を誇る波静かな瀬戸内海に面し、これまで、人々の暮らしや経済・文化など様々な面において、瀬戸内海との深いかかわりの中で、県都として、また、四国の中核管理都市として発展を続けてきた、海に開かれた都市です。

気候は、年間を通して寒暖の差が小さく、降水量の少ないのが特色です。

「高松」は鎌倉時代に開け始め、天正16年（1588年）豊臣秀吉の家臣生駒親正が玉藻浦に居城を築き高松城と名付けたことに由来し、生駒4代54年、松平11代220年を通じて城下町として栄えました。

明治維新の廃藩置県後、香川県の県庁所在地となり、明治23年2月15日に市制をしき、全国40番目の市としてスタートしました。

これまでに大正、昭和、平成を通じ、8回にわたる合併で、北は瀬戸内海から南は徳島県境に至る、海・山・川など恵まれた自然を有する広範な市域の中に、にぎわいのある都心やのどかな田園など、都市機能・水・緑が程よく調和し、豊かな生活空間を有する都市となっています。

恵まれた風土と地理的優位性を生かし、四国の中核管理都市として発展してきましたが、特に昭和63年の瀬戸大橋開通や平成元年の新高松空港開港、平成4年の四国横断自動車道の高松への延伸などにより高松市を取り巻く環境が大きく変化する中、平成11年4月、中核市に移行しました。

今後は、「活力にあふれ 創造性豊かな 瀬戸の都・高松」を目指して、それぞれの地域の特徴をいかした、都市的利便性と自然的環境が享受できる都市の実現に向け、本市にふさわしい、コンパクトで持続可能なまちづくりを進めていきます。

○市の花・木・鳥

花・・・つつじ、木・・・黒松

## ○高松市子ども未来館について

### [目的]

こども未来館においては、子どもを中心とした幅広い世代の人々の交流、子育てに係る支援並びに学習及び体験活動の場を提供し、子どもの夢や想像力を育むとともに、健やかな成長に資するものであり、子どもが健やかに生まれ育つ環境の充実を図り、子どもを生み育てやすいまちを創ることにより、出生率の向上を目指し、人口減少に歯止めをかけることを目的としている。

### [経緯]

高松市の人口は、42万人規模を維持しているものの、平成23年以降、死亡数が出生数を上回り、自然減の状態が続いている。

このような中、次の世代を担う子どもたちが、心豊かに、健やかに育つとともに、子育て中の親たちが、安心して子どもを育てることができる環境を整えるため、「子ども・子育て支援」、「学習体験」、「市民交流」の機能を持った子育て支援と教育支援の拠点として、科学展示室やプラネタリウム、プレイルームなどを設置したこども未来館を中心に、夢みらい図書館、平和記念館、男女共同参画センターを併設した「たかまつミライエ」を整備することにした。



### [実績]

たかまつ創生総合戦略においては、こども未来館を活用しながら、子どもの成長段階に応じ、多様な体験学習の機会を提供することで、子どもの創造力や探究心を育むとともに、次代の親の育成にも取り組むこととしており、「こども未来館わくわく体験事業」は、この趣旨に沿って事業を実施している。

また、総合戦略の基本目標の一つに合計特殊出生率(27年度 1.62→31年度 1.68)を定めており、本事業はこの目標達成に寄与するものである。

#### 【こども未来館わくわく体験事業】

	こども未来館来館者数(人)	合計特殊出生率	
申請時	—	1.65	(H29.1)
初年度	70,000	1.66	(H30.3)
2年目	100,000	1.67	(H31.3)
3年目	100,000	1.68	(H32.3)

	H28(5ヶ月)	H29	H30	R01	R02	R03
利用者数(人)	54,008	121,930	132,322	123,257	84,258	81,772
					コロナにより人数制限	

### [所感]

高松市子ども未来館の利用者数は、昨年度、一昨年度はコロナの影響により若干利用者数は人数制限がかかり減少してはいるが、開設から10万人越えの利用状況であるとの報告及び現地視察の当日でもわかったが、非常に多くの方が利用されていた。

また、利用者の方の声を直接聞いたところ、安心して非常に利用しやすく頻繁に使わせてもらっているとの声があった。

子どもを中心とした幅広い世代の人々の交流、子育てに係る支援並びに学習及び体験活動の場を提供し、子どもの夢や想像力を育むとともに、健やかな成長に資するものであり、子どもが健やかに生まれ育つ環境づくりにおいて大いに参考になった。

報告者 香芝市庁舎等乳幼児等施設利用環境調査特別委員会委員長 眞鍋 亜樹